

News Letter



人に踏まれない場所のツメクサ。株は直径10cm程度になる。

ご存じの方も多いと思うが、私はいわゆる巨漢(約0.1t)である。不思議なもので自分が大きいと、普通の大きさの人以上に小さい生き物が愛らしく思えるようである。今日の話は、その小さい生き物についてなのだが、動物ではなく植物である。

それはツメクサというナデシコ科の1~2年草である。実に小さな植物で地面にへばりつくように生え、ソメイヨシノの花が盛りをすぎた頃にハコベに似た小さな小さな白い花を付ける(図鑑での花期は3月~8月、葉の形が切った爪に似ている)。全国の路傍や空き地に普通に見られるが、この植物はいわゆる都市型生物といえるもので、人間が作り出した人工的な環境にも良く適応して、けなげに花を咲かせる。

私の住んでいる世田谷区の用賀という町に、用賀駅から世田谷美術館に至る用賀プロムナードと呼ばれているきれいな緑道がある。その平板舗装は目地をモルタルで埋めていないために、春になると舗装の目地からツメクサを含めた多くの雑草が生えてくる。おもだった種としてツメクサ、スズメノカタビラ、ナズナ、ウスアカカタバミ、セイヨウタンポポ、コハコベ、ハハコ

グサ、ノゲシ等がある。これらは、年中人々に踏まれる可能性がある舗道上で、昼間は高温と乾燥、夜は冷え込みに耐えて、地味だがよく見ると可憐な花を咲かせている。

ツメクサをはじめ、これらは生えている場所によってずいぶん大きさが異なる。動物は種によっておおむね大きさが決まっているが、植物は動物に比べていかにげんとか、幅があるとか、同じ種でも生えている環境によって著しく大きさが変わる。用賀プロムナードのツメクサも人に踏まれない場所では直径10cm程度の株を作るが、よく踏まれる場所では直径1cmにも満たない株がある。そうした小さい株は、まれに1輪程度の花を付けることもあるが、付けられずに冬を迎える個体もある。

概してこの用賀プロムナードの平板の目地のような場所に生育する都市型の植物は、その本来の生育地の個体に比べて小さく、無意識に作られた盆栽のようなもので本当に小さくて愛らしい。しかも

幅4mmの

野生空間

~街角の足元から~



よく踏まれる場所のツメクサの株は、直径1cmにも満たない。

彼らの生育は、それを歓迎されているわけではなく、踏みつぶされるか近い将来維持管理の名のもとにむしり取られてしまう個体が多い。それでも何とか種子を目地の4mmも幅のない土に残し、種子を作れなかった個体は枯れて土を肥やし、次の年にはまた新たな生命の息吹を芽生えさせる。私はこの緑道に植栽された植物よりも、これらの小さな小さな生命の営みに、尊さと愛しさを感じる。

最近、このように都市における野生植物の生育などが造りだした景観をアノニマス景観(デザインされていない景観)と呼びそれを研究する会もあるそうだ。人間の心には野生生物のたくましく生き生きした営みが必要なのではないかと思う。できればこのような野生(自然)の営みと共に生きることができる都市空間を創出し、そこで暮らしたいものである。

(取締役副社長・逸見一郎)